

令和5年度

ジャンプアップ研修 実施要項

徳島県教育委員会

目 次

I	ジャンプアップ研修の概要	1
II	所属校研修要項	2
III	教科等指導研修要項	3
IV	研修履歴の活用について	4
V	とくしま教員育成指標	
	・ 小学校教諭用	5
	・ 中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用	6
	・ 高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用	7
	・ 特別支援学校教諭用	8
	・ 養護教諭用	9
	・ 栄養教諭用	10
VI	提出書類	
	とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表（記入例）	11
	【様式 A】 とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表	
	・ 小学校、中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用	12
	・ 高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用	13
	・ 特別支援学校教諭用	14
	・ 養護教諭用	15
	・ 栄養教諭用	16
	【様式 B】 とくしま教員育成指標に基づく自己評価表（記入例）	17
	とくしま教員育成指標に基づく自己評価表	
	・ 小・中・中等（前期課程）、高・中等（後期課程）教諭用	18
	・ 特別支援学校教諭用	19
	・ 養護教諭・栄養教諭用	20
	【様式 C】 研究授業実施計画表	21
	【様式 D】 ジャンプアップ研修 研究授業実施報告書	22
	【様式 E】 欠席届	23
VII	G I G A スクール構想推進のための指導案例	24

I ジャンプアップ研修の概要

1 ねらい

採用後5年目の教諭等が、広い視野からこれまでの教職経験を振り返り、それぞれの使命を自覚するとともに、教諭等に求められる資質及びICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上と人的ネットワークの構築を図る。

徳島教育大綱及び徳島教育振興計画（第3期）との関連について
【eラーニング研修による働き方改革】－教職員の資質能力向上

2 主 催

徳島県教育委員会

3 受講対象者

採用後5年目の小学校教諭、中学校教諭、中等教育学校教諭、高等学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭、栄養教諭に対して実施する。

4 研修内容等

(1) eラーニング研修（令和5年4月28日～5月31日）

① 受講案内文書にあるURLにアクセスし、eラーニングを受講後、次の書類を作成し管理職員の確認後にジャンプアップ研修担当宛にメールで送信する。

ア 提出物

- ・とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表【様式A】
- ・とくしま教員育成指標に基づく自己評価表【様式B】
- ・研究授業実施計画表【様式C】（NITSオンライン講座を視聴して取り組む）

イ 提出期限

令和5年6月2日（金）

ウ 提出先

ジャンプアップ研修実施要項 P.2 参照

(2) 所属校研修（eラーニング研修終了後～10月末）

① 「とくしま教員育成指標」に基づく自己評価を踏まえ、自己の課題を把握し、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力向上に関するものを研究課題として設定する。校内での徳島型メンター制度を活用し、相互に授業を参観し、相談をしたり意見交換をしたりしながら研究を進める。

② 研究授業と研究協議を10月末までに1回以上実施する。その際、管理職員の参加により、指導助言を受けること。また、研究協議参加者からの意見・助言も踏まえて次の書類を作成し、管理職員の確認後にジャンプアップ研修担当宛にメールで送信する。

ア 提出物

- ・研究授業実施報告書【様式D】
- ・学習指導案（A4判）

イ 提出期限

令和5年11月2日（木）

ウ 提出先

ジャンプアップ研修実施要項 P.2 参照

(3) 教科等指導研修

① 次の書類を完成させて、管理職員の確認後に教科等指導研修に持参すること。

※「eラーニング研修」「校内での研究授業・研究協議」等で学んだことを反映させた内容にすること。

- ・とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表【様式A】
- ・とくしま教員育成指標に基づく自己評価表【様式B】
- ・学習指導案、授業で使った資料や教材等（教科別人数＋1部）
- ・研修履歴（「IV 研修履歴の活用について」参照）

② 徳島県立総合教育センターで開催する次の校種別部会に参加すること。

令和5年11月24日（金）小学校部会

令和5年11月27日（月）中学校・中等教育学校（前期課程）部会、養護教諭部会、栄養教諭部会

令和5年11月28日（火）高等学校・中等教育学校（後期課程）部会、特別支援学校部会

Ⅱ 所属校研修要項

1 目 的

学習指導要領の趣旨を実現するために、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上を図る。

関連する「とくしま教員育成指標」の資質・能力の項目

- ・素養「B 識見・学び続ける力」
- ・授業力・学習指導「C 授業実践力」「D 授業省察力・改善力」
- ・ICTの利活用「A ICTを学習指導に利活用する力」
- ・専門的職務実践力・学習指導「養護教諭B 保健教育」「栄養教諭F 教科等における教育指導」

2 期 日

eラーニング研修終了後～令和5年10月末まで

3 内 容

① eラーニング研修終了後の課題について

「『とくしま教員育成指標』に基づく自己評価【様式A】、【様式B】」を踏まえ、自己の課題を把握する。eラーニング研修で視聴したNITSオンライン講座の学びを取り入れて、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力向上に関するものを研究課題として設定し、「研究授業実施計画表【様式C】」を作成する。校内での徳島型メンター制度を活用し、互いに授業を参観して協議を重ねながら、教科等における授業改善の方法を探究し、課題解決に向けて研究を進める。

ア 提出物 **【様式A】、【様式B】、【様式C】** ※管理職員の確認後に提出すること。

イ 提出方法 ジャンプアップ研修担当宛にメールで送信する。（下記参照）

ウ 提出期限 **令和5年6月2日（金）必着**

② 研究授業について

小学校教諭は、これまで深く研究する機会のなかった教科等や苦手な教科等に取り組むよい機会と捉え、「各教科（道徳科、外国語科を含む）、外国語活動、特別活動、総合的な学習の時間」の中から選択すること。また、特別支援学級担任は、各教科等を合わせた指導、自立活動も選択できる。人権学習に取り組む場合は、教科名等を先に表記し、これが人権教育として展開されるものであることを「〇〇科（人権）」の形で併記する形式で報告すること。

中学校・中等教育学校（前期課程）及び高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭は、担当教科（科目）で研究授業を実施する。なお、中学校の特別支援学級担任は、各教科等を合わせた指導、自立活動も選択できる。

特別支援学校教諭は、「各教科（科目）（道徳科、外国語科も含む）、外国語活動、各教科等を合わせた指導、総合的な学習（探究）の時間、特別活動、自立活動」の中から選択すること。

いずれの校種においても、ティーム・ティーチングの授業の場合は、T1として実施すること。

養護教諭は、保健学習（指導）でT1として実施すること。

栄養教諭は、教科等における「食に関する指導」をT2として実施すること。

学習指導案の形式は、徳島県立総合教育センターWebサイト→教職員支援・学校支援→教科等の指導に役立つ情報→各校種・各教科のページや、ジャンプアップ研修実施要項23ページ「Ⅶ GIGAスクール構想推進のための指導案例」、文部科学省のWebサイト等を参考に作成すること。

ア 提出物 **【様式D】、学習指導案（A4版）** ※管理職員の確認後に提出すること。

イ 提出方法 ジャンプアップ研修担当宛にメールで送信する。（下記参照）

ウ 提出期限 **令和5年11月2日（木）**

【送付先メールアドレス】

jumpup@mt.tokushima-ec.ed.jp

- ・メールの件名「受講者番号・氏名・学校名（・教科等）」
- ・ファイル名「受講者番号・氏名・様式〇」、「受講者番号・氏名・学習指導案」
- ・提出物は、それぞれPDFファイルにしてメールに添付する。
- ・メール作成時に、「開封確認メールを要求」と設定する等により、送信先がメールを受信できたことを確認する。

Ⅲ 教科等指導研修要項

1 目 的

教科等における授業改善の方法を探究し、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上を図る。また、人権教育及び情報モラル教育等の喫緊の教育課題等について実践事例や演習を通して意義や重要性についての正しい知識を身に付け、とくしま教員育成指標を踏まえた資質・能力の向上を図る。

関連する「とくしま教員育成指標」の資質・能力の項目

- ・ 素養「B 識見・学び続ける力」
- ・ 授業力・学習指導「C 授業実践力」「D 授業省察力・改善力」
- ・ ICTの利活用「A ICTを学習指導に利活用する力」
- ・ 専門的職務実践力・学習指導「B 保健教育」「F 教科等における教育指導」

2 期日及び会場 徳島県立総合教育センター 各研修室

令和5年11月24日（金）小学校部会

令和5年11月27日（月）中学校・中等教育学校（前期課程）部会、養護教諭部会、栄養教諭部会

令和5年11月28日（火）高等学校・中等教育学校（後期課程）部会、特別支援学校部会

3 日程と内容

9：15～ 9：45	受付
9：45～10：00	開会、諸連絡
10：00～12：00	協議「ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力の向上」 講師 学校経営支援課、教職員研修課、特別支援・相談課、 GIGAスクール推進課、学校教育課、人権教育課、 体育健康安全課 各担当者
12：00～13：00	昼食・移動
13：00～13：45	講義・演習「人権教育について」 講師 人権教育課 担当者
13：45～14：30	講義・演習「情報モラル教育について」 講師 GIGAスクール推進課 担当者
14：40～15：50	講義・演習「自分で切り拓くキャリアデザイン」 講師 学校経営支援課、教職員研修課、特別支援・相談課、 体育健康安全課 各担当者
15：50～16：00	諸連絡・アンケートについて、閉会

4 準備物

- ・ 筆記用具等（署名できるボールペン等を準備してください。）
- ・ 「『とくしま教員育成指標』に基づく自己評価【様式A】、【様式B】」
※1度提出したものを完成させて、必ず管理職員の確認を受けること。
- ・ 研修履歴（「Ⅳ 研修履歴の活用について」を参照しプリントアウトする）
- ・ 学習指導案と授業で使った資料や教材等（教科別人数＋1部）
※教科別人数は後日文書にて通知する。

5 備 考

- (1) やむを得ず欠席（遅刻・早退）する場合は、あらかじめ管理職員（緊急の場合は本人）がジャンプアップ研修担当に連絡してください。教職員研修課長により欠席が承諾された場合、管理職員は、総合教育センターのWebサイト又は本冊子に掲載しているジャンプアップ研修実施要項【様式E】「欠席届」を、速やかにメールに添付して送付してください。なお、送付は、学校代表もしくは管理職員のメールアドレスから行うようにしてください。
【送付先】総合教育センター教職員研修課 kyoushokuinkenshuu@g.tokushima-ec.ed.jp
- (2) 服装は、研修にふさわしい服装で参加してください。5月～10月に実施する研修についてはエコスタイル（夏はノー上着・ノーネクタイ等）で結構です。
- (3) 研修当日、午前7時の時点で研修会場を含む地域（総合教育センターの場合は「板野町」地域）に、特別警報又は暴風警報、大雪警報が発表中の場合は、その日の研修講座等は中止します。後日、振り替えて実施することはありません。
- (4) 昼食が必要な方は、当日に弁当の注文ができます。
- (5) 新型コロナウイルス感染拡大防止等のため、体調を把握し、感染が疑われる場合には欠席してください。その場合も、(1)と同様に担当者まで連絡してください。また、日程や準備物等の変更があることも想定されますので、その際には連絡いたします。

【連絡先】教職員研修課 ジャンプアップ研修担当 088-672-5100

IV 研修履歴の活用について

御自身のキャリアデザインのために研修履歴を次の手順で確認しましょう。

- 1 徳島県立総合教育センターのホームページを表示し、画面上部のタブの「教職員研修講座」をクリックします。表示された画面から「講座申込」をクリックします。



- 2 次に表示された「研修講座申込みシステム」の画面の右上の「ログイン」をクリックすると、また画面が変わるので、各自の職員番号とパスワードを入力してログインします。なお、初期パスワードは、職員番号の先頭に英数小文字のpを加えたものです。最初のログイン時に変更するようになっています。（変更後は、忘れないでください）

ユーザーIDとパスワードを入力してください

ユーザーID:

パスワード:

職員番号（半角数字7桁）

p（半角小文字）＋職員番号（半角数字7桁）
（例）p1234567

- 3 ログインできると、画面左側のメニューから「研修履歴表示」をクリックすると研修履歴の表示ができます。必要に応じて印刷して御活用ください。

教職員メニュー

パスワード変更

共通メニュー

お知らせ

申込み状況公開

研修講座実施要項

履歴

研修履歴表示

ようこそ 徳島 太郎 さん / [ログアウト](#)

研修履歴表示

15件のデータがありました。 ☐ 基本研修の詳細表示 20件 ▼

学校	氏名	研修種別	研修名・研修講座名	年度	受講日数(回数)
"	"	"	学校安全教室並びに学校安全教育指導者研修会	H23	1.0
"	"	"	徳島県中学校教育課程研究集会（総則）	H24	1.0
"	"	"	学校安全教室及び学校安全教育指導者講習会	H27	1.0
"	"	特別研修	情報モラル教育研修会	H27	1.0

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	伸長・充実期
A 使命感・倫理観	B 学び続ける力	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨みとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましく精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	
		○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職責を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	
		○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	
E 連携・協働力	F 危機管理能力	○ 自他を大切に、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 児童一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
		○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ 学校の経営方針を理解し、報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ グループリーダーとして、創意工夫や企画力を発揮し、他のグループとも連携・調整しながら、組織を活性化させている。
A カリキュラム・マネジメント力	B 授業精進力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域や教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 家庭や地域に働きかけ、教育活動を充実させるためのネットワークを形成している。
		○ 互いの課題や悩みを解決するため情報交換を積極的に行うとともに、先輩教員に相談したり助言を求めたりしている。	○ 互いの課題や悩みを共有を図るとともに、若手教員の範となるよう努めている。	○ 校内研修を充実させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 人材育成の重要性を踏まえ、OJTを計画的・継続的に進め、支え合い、学び合う環境づくりをしている。
C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の問題への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考慮し、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。
		○ 学習指導要領の「目標」「内容」や系統等を理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、児童の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、児童の実態や新たな教育課題に対応するため、目的や意図を明確にしたカリキュラムを提案している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。
A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力	○ 児童の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を考えながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法をとり入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着のために、指導と評価の一体化を図り、教材等の開発やICT等の効果的な活用に取り組み、創意工夫のある授業を構想している。	○ これまでの実践や経験を基に、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法と学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。
		○ 基本的な指導技術を身に付け、児童の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・児童とのやり取り、最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 最新の知見に基づき、新たに身に付けた指導技術、指導方法、評価方法を積極的に活用し、授業を展開するとともに、若手教員への助言・育成にあたり続けている。	○ 幅広い情報を基に、自分の指導技術、指導方法、評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた授業を積極的に示し、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。
C 課題解決力	D 未来ビジョン育成力	○ 児童の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 児童の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 学びの質や長期的な変容にも目を向け、ICT等を効果的に活用して一人一人の習得状況を的確に把握し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。
		○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 自分の授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 校内や都市の研究会等で研究授業を積極的に行うとともに、助言を受けて、自分の授業を客観的に評価し、授業改善につなげている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。
A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	○ 児童理解の意義や、児童の心身の発達過程・特徴について理解している。	○ 児童に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感的理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 児童の発達や個性等をより多面的に理解して信頼関係を構築し、長期的な視野をもって社会的資質や行動力を獲得できるよう意図的・計画的に指導・支援をするとともに、若手教員に助言をしている。	○ 児童を深く理解し、細やかな配慮をするとともに、全ての教職員で児童の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。
		○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、学級経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ 学級集団をはじめ、児童会やクラブ活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫性のある指導・支援をしている。	○ 異年齢集団等様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。	○ 学校全体の集団づくりの取組を視野に入れ、活性化させるための具体的方策を提案している。
C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、児童、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携のうえから課題解決を図り、その様々な方策について、若手教員に助言をしている。	○ 学校が直面する様々な課題を把握し、組織的できめ細やかな指導・支援が行われるよう働きかけている。
		○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、児童の自己有用感を高めつつ、自立した生活、社会の形成における自己の役割について理解できる素地を育てる指導をしている。	○ 発達段階に応じて、グローバルな視野と低・中・高学年のキャリア・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえ、異年齢集団を組織したり、他校種や家庭、地域、企業、関係機関等との連携を図ったりしながら、あらゆる教育活動を通じて指導・支援をしている。	○ 学校の教育活動全体を通じて、グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた指導が充実するよう、助言をしている。
A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 児童の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、合理的配慮の視点から校内での連絡・調整を行うなどして、学校生活全体を通じて個に応じた支援を行っている。	○ 個々の児童に対する合理的配慮の実施について協議したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。
		○ 関係する校務分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んだり、児童同士の相互理解を促進するような交流及び共同学習に取り組んだりしている。	○ 校内委員会等で情報共有を行ったり、外部の専門家や関係機関と連携したりして、ケース会議等を実施している。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で支援する体制の整備を推進している。
C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	○ 学びに困難を抱える児童への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、児童の学習上のつまづきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意図的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ アセスメントに基づき指導目標を明確化し、担任・担当間で積極的に授業改善を行うとともに、児童の得意な面を認めることにより、学習意欲の向上につなげる支援をしている。	○ 児童一人一人の実態に応じた目標設定、教材教具の工夫、指導方法、称賛・承認の方法等について、若手教員に助言している。
		○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 児童が見通しをもって学校生活を通過ごせるように、教室環境の整備や学級内ルール明確化を図るとともに、コミュニケーションスキル向上等に関する指導を行っている。	○ 特別な配慮や支援を必要とする児童を含む全ての児童の望ましい行動を育てるために、ポジティブ行動支援の手法を用いて、課題の解決や問題の予防に取り組んでいる。	○ 個別支援や、ポジティブ行動支援の実践について、全教職員で指導の効果を確認し、児童の成長と共に喜ぶ機会を計画的に設定している。
A ICTを学習指導に活用する力	B 業務の遂行に活用する力	○ 児童の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 児童の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ 児童一人一人に応じ、育成を目指す資質・能力の定着を図るため、学習内容に応じて、ICTを適切かつ効果的に活用した創意工夫のある授業を実践している。	○ これまでの実践や経験をともに、単元・題材の開発や授業構想に指導の専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。
		○ 学習指導に必要なアプリケーション・情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価につなげている。	○ 最新の知見に基づき、ICTを効果的に活用した授業を実践するとともに、学びの質や長期的な変容に関する教育データを分析し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための補足的・発展的な指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上についての研究に努め、助言をしている。
A ICTを学習指導に活用する力	B 業務の遂行に活用する力	○ 学校業務に必要なアプリケーション・操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの多くの機能を活用して効率的に業務を遂行している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基礎形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基礎形成期	伸長・充実期	熟達期
A 使命感・倫理観	B 学び続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力
A カリキュラム・マネジメント力	B 授業構想力	C 授業実践力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力
A ICTを学習指導に活用する力	B ICTを効率的な業務の遂行に活用する力	C 授業省察力・改善力	D 授業省察力・改善力	A 児童生徒理解・指導力	B 集団づくり力

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	伸長・充実期
A 使命感・倫理観	B 職業見 学び続ける力	○ 教育的愛情と熱意をもって教育活動に臨もうとしている。	○ 「とくしま」を愛し、徳島教育大綱に示されている「人材」の育成を目指し、使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。	○ 使命感と教職への誇り、たくましい精神力と柔軟性をもって、教育活動を推進している。	
		○ 社会人としての常識やマナー、道徳性(情報モラルを含む。)を身に付け、法令遵守の精神に基づいた行動をしている。	○ 教育公務員としての自覚をもち、法令やセキュリティポリシー等を遵守するとともに、誠実かつ公正に職務を遂行し、家庭や地域の信頼を得ている。	○ 家庭や地域の信頼に応え、法令やセキュリティポリシー等の遵守を周囲の教職員に働きかけ、組織の志気を高めている。	
		○ 学び続ける意欲をもち、他者の意見を謙虚に受け止めている。	○ 知見を広げ、物事を的確に判断するとともに、主体的に研修に取り組んでいる。	○ 豊かな経験に裏打ちされた識見を有し、課題意識と探究心をもって自己研鑽に努めるとともに、範を示している。	
		○ コミュニケーションスキルを身に付け、他者と積極的に関わり、助け合っている。	○ 教職員、家庭や地域と幅広く関わり、自分の考えを適切に伝えながら、助け合っている。	○ 組織のコミュニケーションを活性化するとともに、管理職や学年・職種等の異なる教職員とのパイプ役となり、支え合う環境づくりをしている。	
C 社会性・ コミュニケーション力	D 学校組織 マネジメント力	○ 自他を大切にし、人権感覚を身に付け、互いに尊重し合う人間関係を築いている。	○ 生徒一人一人の抱えている悩みや願いを把握し、差別やいじめを許さない集団をつくるとともに、教育的愛情をもち、人権を尊重し、行動している。	○ 学校や地域の人権に関する課題の解決に向けて、関係機関等とともに取り組み、人権尊重の精神が高まるよう家庭や地域に広めている。	
		○ 組織の一員として、目標と自分の役割を理解し、協働して責任を果たそうとしている。	○ スクール・ミッションやスクール・ポリシーを理解し、業務についての報告・連絡・相談を適切に行いながら、日々の教育活動に協働して取り組んでいる。	○ グループの強みと弱みを分析したり、PDCAサイクルを活用したりしながら、組織を活性化させている。	○ 学校教育目標やスクール・ミッションの達成に向け、「チーム学校」としての組織力が発揮できるよう率先して工夫改善に努め、学校全体の教育計画の作成に参画している。
E 連携・協働力	F 危機管理能力	○ 家庭や地域と連携する重要性を理解し、ボランティア活動や地域の行事等へ参加している。	○ 家庭や地域との連携・協働の意義を踏まえ、家庭や地域と積極的に関わり、協働活動に取り組んでいる。	○ 地域の教育資源(人材・施設・伝統行事等)についての情報を把握し、その活用を図っている。	○ 地域における学校の役割を認識し、家庭や地域と協働する教育活動を推進している。
		○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の重要性を理解し、危険を察知したとき、状況に応じた行動をしている。	○ 安全教育・防災教育・情報モラル教育・食物アレルギー対応等に関する危機管理の知識を身に付け、早期発見や想定外の事態への対応に努め、緊急時に自分の役割を果たしている。	○ 危機管理に対する意識を高め、危険を予測して行動するとともに、安心・安全に配慮した環境づくりをしている。	○ 緊急時のシミュレーションを行い、対応を考え、グループの中心となって事故等の未然防止に向け行動している。
ICTの活用	特別な配慮・支援 ICTの活用	授業力・学習指導 A カリキュラム・マネジメント力 B 授業構想力 C 授業実践力 D 授業省察力・改善力 A 児童生徒理解力 B 集団づくり力 C 課題解決力 D 未来ビジョン育成力	○ 学習指導要領の「目標」「内容」や系統等理解している。	○ 学校教育目標を踏まえつつ、生徒の実態に応じ、作成の意図を考えながら、学校のカリキュラムを活用している。	○ 学校教育目標を踏まえ、各学年間の系統や幼・小・中・高の接続を見通して、学校の特色を生かした創意工夫のあるカリキュラムを作成している。
			○ 学力調査・学校評価等の結果を、日々の授業改善に結び付けている。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学年や担当教科等の中心となって、長期的・継続的な改善策を提案し実践している。	○ 学力調査・学校評価等の結果に基づき、学校の課題を把握し、改善策を組織的に展開している。
			○ 生徒の活動の姿や思考の流れを想定し、教材やICT等の効果的な活用場面等を分析しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の心身の発達や学習過程に関して理解するとともに、生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、様々な教材やICT等の効果的な活用や評価方法を取り入れた授業を構想している。	○ これまでの実践や経験に基づき、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高め、ICT等の効果的な活用方法や学習評価の研究に努め、改善につながる助言をしている。
			○ 基本的な指導技術を身に付け、生徒の学習の様子を把握しながら授業を実践しようとしている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、発問・指示・説明・板書・生徒とのやり取り・最新のICT等の指導技術を身に付け、活用している。	○ 幅広い情報を基に自分の指導技術、指導方法や評価方法を更新しつつ、新しい技術や方法を取り入れた範を積極的に示したり、学校全体の授業力向上を働きかけたりしている。
			○ 生徒の習得状況に応じた指導・支援の方法を理解している。	○ 生徒の習得状況を目標に照らして評価し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実のための指導・支援をしている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による質的な学習の深まりを把握し、意図的・計画的な指導・支援をしている。
			○ 授業を分析して改善する手立てを理解し、実践しようとしている。	○ 自分の授業を振り返り改善する習慣や、他の教職員の授業に学ぶ習慣が身に付いている。	○ 学校全体の授業改善に取り組む環境づくりに努め、教員の個性を生かす助言をしている。
			○ 生徒理解の意義を理解し、生徒指導や教育相談等の基本的な方法を身に付けている。	○ 生徒に向き合い、一人一人の人格を尊重し、共感の理解に努めて信頼関係を構築するとともに、社会的資質や行動力を高めるよう指導・支援をしている。	○ 生徒を深く理解し、細やかな配慮をするなど、全ての教職員で生徒の理解や指導・支援の方針について共通理解を図る環境づくりをしている。
			○ 担任の職務内容や集団づくりの意義を理解し、ホームルーム経営の基本的な指導方法を身に付けている。	○ ホームルームをはじめ、生徒会や部活動等の集団の経営方針を基に、それぞれ一貫した教育指導・支援をしている。	○ 様々な集団活動について、よりよい集団に高め、集団相互の関わりを活性化させるとともに、若手教員に助言をしている。
			○ 学校生活の中で生じる様々な課題の発見と対応の方法について理解し、積極的に課題解決に取り組もうとしている。	○ 様々な課題に気づき、生徒、保護者、他の教職員と相談しながら、的確に課題解決を図っている。	○ 課題の未然防止や迅速な発見に努め、必要に応じて専門家と連携しながら課題解決を図り、その様々な方策について若手教員に助言をしている。
			○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の重要性を理解し、基本的な指導方法を身に付けている。	○ キャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点を踏まえた学習の場を設定し、生徒が勤労観・職業観を確立するとともに、自立した生活、社会における自己の役割についての認識を深め、社会を形成する一員として主体的に行動できるよう指導している。	○ グローバルな視野とキャリア教育・消費者教育・主権者教育の視点に基づいた指導が充実するよう助言するとともに、家庭、地域、企業、関係機関等と連携した指導・支援を推進している。
			○ 特別支援教育の理念や動向、特別支援教育に関連する基礎的な用語や、個に応じた指導・支援の必要性を理解している。	○ 生徒の教育的ニーズに対応するための専門性を高め、他の教職員とともに本人・保護者のニーズを踏まえた個別的教育支援計画や個別の指導計画を立案して、個に応じた指導・支援に取り組んでいる。	○ 個々の生徒に対する合理的配慮の実施について助言したり、障がい者理解の促進について、家庭や地域への発信に努めたりしている。
			○ 関係する校内分掌(特別支援教育コーディネーター等)や、関係機関(医療・福祉・労働)のそれぞれの役割を理解している。	○ 保護者や特別支援教育コーディネーター、他の教職員と連携・協働しながら、指導・支援に取り組んでいる。	○ インクルーシブ教育システム構築に向け、関係機関等と連携しながら、学校全体で生徒を支援する体制の整備を推進している。
			○ 学びに困難を抱える生徒への配慮を理解し、基本的な指導・支援の方法を理解している。	○ 他の教職員と協働し、生徒の学習上のつまずきに対する配慮や支援、教材づくりに積極的に取り組み、意欲的・主体的に学ぶ授業づくりを行っている。	○ 個々の生徒に対する学習指導上の合理的配慮の実施について、若手教員に助言している。
			○ 将来の社会参加と自立の視点に基づき、発達障がい等の特性による生活上の困難や、問題行動への基本的な支援方法を理解している。	○ 生徒が安心して生活できるように、教室環境の整備やホームルーム内ルールの明確化を図るとともに、コミュニケーションスキルの向上や感情のコントロール等に関する指導を行っている。	○ 卒業後の自立と社会参加を目指した指導・支援の充実を図るため、社会生活や就労への適応力向上のための取組を組織的に展開している。
			○ 生徒の活動の姿や思考の流れを踏まえ、ICTの活用場面等を想定しながら、学習指導案を作成している。	○ 生徒の実態に応じ、育成を目指す資質・能力の定着に向け、目標と評価を関係付けて、ICTを積極的に取り入れた授業を構想している。	○ これまでの実践や経験をもとに、単元・題材の開発や授業構想に関する専門性を高めるとともに、ICTの効果的な活用方法の研究に努め、授業改善につながる助言をしている。
			○ 学習指導に必要なアプリケーションや情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 育成を目指す資質・能力の定着に向け、積極的にICTを活用した指導を実践するとともに、蓄積した教育データを学習評価等につなげている。	○ 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、必要とされる教育データの活用とICTスキルの向上における研究に努め、助言をしている。
			○ 学校業務に必要なアプリケーション・操作や情報モラル・セキュリティに関する知識や技能を身に付けている。	○ 所属する組織のセキュリティポリシーを理解し、学級事務、校務において、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスを活用している。	○ セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	深化・発展期
A 使命感・倫理観	B 職業見 学 び 続 け る 力	C 社 会 性・ コミュニケーション力	D 学 校 組 織 マ ネ ジ ム ン ト 力	E 連 携 ・ 協 働 力	F 危 機 管 理 力
A カリキュラム・ マ ネ ジ ム ン ト 力	B 授 業 構 想 力	C 授 業 実 践 力	D 授 業 省 察 力・ 改 善 力	A 幼 児 児 童 生 徒 理 解 ・ 指 導 力	B 集 団 づ くり 力
A 幼 児 児 童 生 徒 理 解 ・ 指 導 力	B 集 団 づ くり 力	C 課 題 解 決 力	D 未 来 ① ② ③ 育 成 力	E 目 標 の 明 確 化・ 実 態 把 握 力	F チームによる力
A センター的機能の 推 進 力	B 地 域 貢 献 力	C ICTを学習指導に 利 活 用 する 力	D ICTを効率的な 業 務 の 遂 行 に 活 用 する 力	E 学 校 業 務 支 援 シ ス テ ム や そ の 他 の ク ラ ウ ド サー ビ ス の 効 率 的 な 利 活 用 について教職員に 提 案 し ている。	F セキュリティポリシーを遵守し、学校業務支援システムやその他のクラウドサービスの効率的な活用について教職員に提案している。

キャリアステージ		採用時に本県が求める力	＜第1ステージ＞ 基盤形成期	＜第2ステージ＞ 伸長・充実期	＜第3ステージ＞ 熟達期
資質・能力		養成期	基盤形成期	伸長・充実期	熟達期
A 使命感・倫理観	B 学び続ける力	C 社会性・コミュニケーション力	D 学校組織マネジメント力	E 連携・協働力	F 危機管理能力
A 保健管理	B 保健教育	C 健康相談	D 保健室経営	E 保健組織活動	F 児童生徒理解・指導力
A 個に応じた指導・支援力	B チームによる実践	C 「わかった」「できた」を育む学習支援力	D 「わかった」「できた」を育む生活支援力	E ICTを学習指導に活用する力	F ICTを効率的な業務の遂行に活用する力

令和4年度改訂

– 10 –

Ⅵ 提出書類

【様式A】 とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表(記入例)

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

小 10

【自己評価方法】

- ①とくしま教員育成指標を参考に、各項目ごとに自分の現状に合うように整理して文章で入力する。
ジャンプアップ研修実施要項(p5～p10)にある、とくしま教員育成指標を参考にしてください。
- ②自分に当てはまるものを次のように数値化する。
あてはまる…4 だいたいあてはまる…3 少しあてはまる…2 あてはまらない…1
- ③「素養」「担任力・学習指導」「ICTの利活用」などの大きなまとまりごとに、平均を出して、チャート【様式B】に入力する。

受講者番号を
記入する。

学 校 名		〇〇市△△小学校		職・氏名		教諭・□□ □□	
担当教科		音楽		校務分掌		安全教育	
資質・能力				自己評価のチェック			
				実施日(5/12)		実施日()	
項目		具体的内容		評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観	使命感と情熱をもって、たくましく、粘り強く教育活動に取り組んでいる。				
	B	識見・学び続ける力	知見を広げ、主体的に学習に取り組んでいる。				
	C	社会性・コミュニケーション力	とくしま教員育成指標に示された資質・能力を読み、大切な表現を整理して入力する。				
	D	学校組織マネジメント力					
	E	連携・協働力					
	F	危機管理能力					
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力					
	B	授業構想力					
	C	授業実践力					
	D	授業省察力・改善力					
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力					
	B	集団づくり力					
	C	課題解決力					
	D	未来ビジョン育成力					
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力	【自己評価の活用について】 ①自己評価から見てきた自分のよさや課題を整理する。 ②自己分析を踏まえて、本年度の目標を設定する。				
	B	チームによる実践					
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力					
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力					
ICTの利活用	A	ICTを学習指導に活用する力					
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力					

6月2日(金)までに、色の付いているところに入力して提出する。

教科等指導研修実施日までに完成させ、研修日に持参する。

【様式A】小学校、中学校・中等教育学校（前期課程）教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名				職・氏名			
担当教科				校務分掌			
資質・能力				自己評価のチェック			
				実施日()		実施日()	
項目		具体的内容		評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観					
	B	識見・学び続ける力					
	C	社会性・コミュニケーション力					
	D	学校組織マネジメント力					
	E	連携・協働力					
	F	危機管理能力					
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力					
	B	授業構想力					
	C	授業実践力					
	D	授業省察力・改善力					
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力					
	B	集団づくり力					
	C	課題解決力					
	D	未来ビジョン育成力					
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力					
	B	チームによる実践					
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力					
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力					
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力					
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力					

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照 提出期限 令和5年6月2日(金)

【様式A】高等学校・中等教育学校（後期課程）教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名			職・氏名			
担当教科			校務分掌			
資質・能力			自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力				
	B	授業構想力				
	C	授業実践力				
	D	授業省察力・改善力				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	E	多様性に基づく学習支援力				
	F	多様性に基づく生活支援力				
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照 提出期限 令和5年6月2日(金)

【様式 A】 特別支援学校教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第 1 ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

特

学 校 名			職・氏名				
担当教科			校務分掌				
資質・能力			自己評価のチェック				
			実施日()	実施日()			
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均	
素 養	A	使命感・倫理観					
	B	識見・学び続ける力					
	C	社会性・コミュニケーション力					
	D	学校組織マネジメント力					
	E	連携・協働力					
	F	危機管理能力					
授業力・学習指導	A	カリキュラム・マネジメント力					
	B	授業構想力					
	C	授業実践力					
	D	授業省察力・改善力					
担任力・生徒指導	A	幼児児童生徒理解・指導力					
	B	集団づくり力					
	C	課題解決力					
	D	未来ビジョン育成力					
	E	目標の明確化・実態把握力					
	F	チームによる組織力					
特別支援の充実	G	センター的機能の推進力					
	H	地域貢献力					
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力					
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力					

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照 提出期限 令和5年6月2日(金)

【様式A】養護教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

養

学 校 名			職・氏名			
担当教科			校務分掌			
資質・能力			自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
専門的職務実践力・学習指導	A	保健管理				
	B	保健教育				
	C	健康相談				
	D	保健室経営				
	E	保健組織活動				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力				
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力				
ICTの利活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照

提出期限 令和5年6月2日(金)

【様式A】栄養教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価チェック表

栄

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名			職・氏名			
担当教科			校務分掌			
資質・能力			自己評価のチェック			
			実施日()		実施日()	
項目		具体的内容	評価	平均	評価	平均
素 養	A	使命感・倫理観				
	B	識見・学び続ける力				
	C	社会性・コミュニケーション力				
	D	学校組織マネジメント力				
	E	連携・協働力				
	F	危機管理能力				
専門的職務実践力・学習指導	F	教科等における教育指導				
	G	個別的な相談指導				
	H	学校給食の管理				
	I	食に関する指導と学校給食の管理の一体的な展開				
	J	食育コーディネーターとしての連携・調整				
担任力・生徒指導	A	児童生徒理解・指導力				
	B	集団づくり力				
	C	課題解決力				
	D	未来ビジョン育成力				
特別な配慮・支援	A	個に応じた指導・支援力				
	B	チームによる実践				
	C	「わかった」「できた」を育む学習支援力				
	D	「わかった」「できた」を育む生活支援力				
ICTの活用	A	ICTを学習指導に活用する力				
	B	ICTを効率的な業務の遂行に活用する力				

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項P.2参照

提出期限 令和5年6月2日(金)

【様式B】

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表(記入例)

高 10

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名	〇〇高等学校	職・氏名	教諭・□□ □□
担当教科等	保健体育	校務分掌	生徒指導

素養

学 授
習 業
指 力
導 ・

生 担
徒 任
指 力
導 ・

特別な配慮・支援

ICTの利活用

5月 ————
11月 - - - -

自己分析

実施日(5/12)

〇よさ

第1ステージ 基盤形成期における達成度を記入してみましょう。
成長の度合いを客観的にみてみましょう。

〇課題

【自己分析に基づく本年度の目標】※どんなことに取り組むか、具体的に書きましょう。

6月2日(金)までに色の付いているところに入力して提出する。

【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どんな資質・能力が高まったか等について書きましょう。

教科等指導研修実施日までに、必ず管理職員の確認を受けて、
完成させたものを研修日に持参する。

記入漏れが多い箇所です。確認してください。

〇〇高等 学校長 徳 島 太 郎

【様式B】小、中・中等（前期課程）、高・中等（後期課程）教諭用
 とくしま教員育成指標に基づく自己評価表
 【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	

学 授
習 業
指 力
導 ・

素 養

生徒 担
徒 任
指 力
導 ・

特別な配慮・支援

ICTの利活用

5月 ———
11月 - - - -

自己分析

実施日()

○よさ

○課題

【自己分析に基づく本年度の目標】※どんなことに取り組むか、具体的に書きましょう。

【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どんな資質・能力が高まったか等について書きましょう。

学校長

【提出について】
 ジャンプアップ研修 実施要項 P.2を参照 提出期限 令和5年6月2日(金)

【様式B】特別支援学校教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	
素養 学 授 習 業 指 導 ・ 生 担 徒 任 指 導 ・ 特別支援の充実 ICTの利活用 5月 ——— 11月 - - - -		自己分析 実施日()	
		○よさ	
		○課題	
【自己分析に基づく本年度の目標】※どんなことに取り組むか、具体的に書きましょう。			
【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どんな資質・能力が高まったか等について書きましょう。			
学校長			

【提出について】

ジャンプアップ研修 実施要項 P.2を参照 提出期限 令和5年6月2日(金)

【様式B】養護教諭・栄養教諭用

とくしま教員育成指標に基づく自己評価表

【第1ステージ 基盤形成期 ジャンプアップ研修】

学 校 名		職・氏名	
担当教科等		校務分掌	
素養 学習指導 専門的職務実践力・ 生徒担任指導・ 特別な配慮・支援 ICTの利活用 5月 11月		自己分析	実施日()
		○よさ	
		○課題	
【自己分析に基づく本年度の目標】※どんなことに取り組むか、具体的に書きましょう。			
【本年度の振り返り】※「自己評価チェック表」を基にして、どんな資質・能力が高まったか等について書きましょう。			
学校長			

【提出について】
ジャンプアップ研修 実施要項 P.2を参照 提出期限 令和5年6月2日(金)

【様式C】 研究授業実施計画表

ジャンプアップ研修では、ICT（1人1台端末等）を活用した実践的指導力のさらなる向上を目指しています。学習指導要領の趣旨を実現するために、各教科等における資質・能力を確実に育成する上で、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に取り組み、研究授業を行ってください。

《研究授業実施計画表作成の留意点》 ☐ 研究課題の設定は、教科、単元・題材の特性等や児童生徒の実態、自身の現状（自己評価の結果）等を踏まえて行うこと。 ☐ 課題解決のための方策として、児童生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした上で、育成するための工夫・改善、自身の実践的指導力の向上のための工夫・改善について考えること。 ☐ eラーニング研修で視聴したNITSオンライン講座から学んだことや、校内の徳島型メンター制度を活用して得た知見等を踏まえて授業づくりに取り組むこと。
--

校 種 等	☐ 小 特 ☐ 中・中等（前期課程） ☐ 高・中等（後期） ☐ 特 ☐ 養 ☐ 栄 （クリックして☑してください）		
学 校 名		氏 名	
NITSオンライン講座視聴タイトル			
講座を視聴して学んだこと・今後に生かしたいこと			
授 業 日	令和 5 年 月 日（ ）		
学 年 ・ 教 科 等	（ ）年 ・ （ ）		
単 元 名 等			
研 究 課 題			
課題設定の理由			
課題解決のための方策			

※特別支援学級で授業を行う場合、「学年・教科等」に、「特別支援学級（障がい種）〇年・（教科）」と記入してください。

※eラーニング終了後に、【様式A】、【様式B】、【様式C】とともに、総合教育センター教職員研修課ジャンプアップ研修担当宛にメールで送信すること。

【送付先メールアドレス】

jumpup@mt.tokushima-ec.ed.jp 提出期限 令和5年6月2日（金）

【様式 D】 ジャンプアップ研修 研究授業実施報告書

校種等	☐ 小 ☐ 中・中等（前期課程） ☐ 高・中等（後期課程） ☐ 特 ☐ 養 ☐ 栄 （クリックして☑してください）	受講者番号 （ ）	学校名 氏 名
教科等名		学年・組	
実施日	月 日 校時	研究協議参加者	
研究授業を実施して（研究協議参加者からの意見・助言を踏まえて記述すること）			
研究課題「 」			
今後の課題とその改善方策について			
学校長			

※ 研究授業終了後に、学習指導案とともに、総合教育センター教職員研修課ジャンプアップ研修担当宛にメールで送信すること。

【送付先メールアドレス】

jumpup@mt.tokushima-ec.ed.jp

提出期限 令和5年11月2日（木）

令和 5 年 月 日

徳島県立総合教育センター所長 殿

学 校 名
校長氏名

欠 席 届

次のとおり、本校職員が令和 5 年度ジャンプアップ研修を欠席しますのでお届けします。

1 職 ・ 氏 名

2 研 修 講 座 名

3 欠席する期間	令和 5 年	1 1 月	日	曜日から
	令和 5 年	1 1 月	日	曜日まで
				() 日間

4 欠 席 の 理 由

- 【送付先】 総合教育センター教職員研修課 kyoushokuinkenshuu@g.tokushima-ec.ed.jp

VII GIGA スクール構想推進のための指導案例（全校種 全教科・領域共通）

（例：中学校英語科 SUNSHINE ENGLISH COURSE 3 PROGRAM 6）

6 本 時（第7時）

（1）目 標

自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）について紹介する文を書くことができる。

（2）展 開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体的評価規準	評価 方法
5分	1 挨拶・ウォームアップをする。	・簡単な Q&A や Small Talk により、英語の授業の雰囲気づくりに努める。		
10分	2 セクション 1～3 の内容について復習する。	・これまでの授業で配付し、生徒が各自タブレットに保存している地図や写真、表などを見ながら音声を聞かせ、セクション 1～3 の概要を再確認させる。 ・電子黒板で画像を提示しながら Q&A を行い、本文の正確な内容を確認させる。		
5分	3 ボイヤンさんの取組についての感想を発表する。	・ボイヤンさんの取組について感じたことを、タブレットのノートに書いて共有させる。		
20分	4 自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）を紹介する英文をタブレットのワークシートに書く。	・前時に作成したマッピングを用いて、自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）を紹介する英文を、入力スキルの差に配慮しながらタブレットのワークシートに書かせる。 <評価のポイント> ・関係代名詞などを用いてまとまりのある英文が書けているか。 ・聞き手・読み手を意識した自然なつながりの文章になっているか。	知・思・態 （各教科・領域 の記入例で）	作品
10分	5 本時のまとめをし、次時の予告と家庭学習の確認、挨拶をする。	・作品をいくつか紹介し、優れた表現を共有するとともに、次時の予定（紹介文の発表）とその準備（家庭学習）をして伝える。		

情報活用能力の評価規準は記入しない。

1人1台タブレット端末等をメインで活用した場面を太字で記入し、枠で囲む。

（3）評価及び指導の例

「十分満足できる」と判断される状況	自分の学校にある（いる）自慢のもの（人）について、関係代名詞を含め既習表現を用いたり、主体的に辞書等で調べたりしながら、まとまりのある英文で正確に書くことができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	関係代名詞を使って書かれた、ものや人を紹介する文を例示したり、単語や表現したいことを辞書やタブレット端末等を使って調べる支援をしたりする。